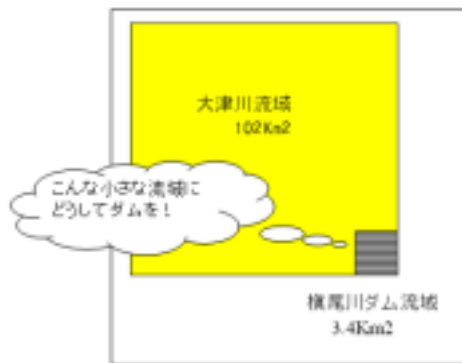


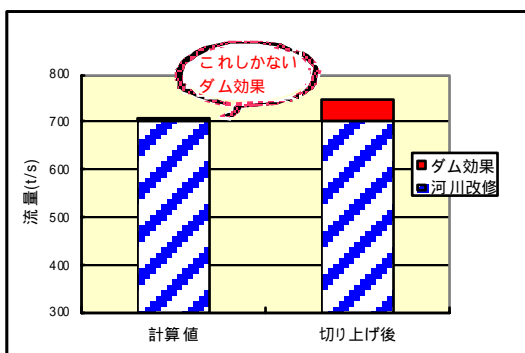
国と大阪府は無用なダム建設に躍起

こんなちっぽけな流域にダム！
今回ダム計画の大津川流域は全体で102 Km²。
それに対して横尾川ダム流域はたったの3.4 Km²で約3%。
こんなところにダムを造って効果があるの？



たった10トン/秒の為にダム建設

大阪府は大津川の水の流れる能力を河川を整備して700Ton/秒に整備する計画です。
一方100年に一度の雨が降った時に水量が計算で710Ton/秒となり、これを無謀にも端数処理と称して750Ton/秒に高上げ(切り上げ)し、その結果50Ton/秒不足するとして、これをダムで対応するという計画です。



本当に不足しているのは10トン/秒で無理やりダムを造る為の論理です。更に前に述べたように710Ton/秒そのものも過大に見積もられた数値です。



一貫性のない洪水対策

和泉市は大雨が降ったら洪水になると言いながら、保水力のある緑をどんどん削っています。250億円の巨費を投入してダムの近くに、泉州東部農用地の開発を行っています。何ともちくはぐな対応ではありませんか。

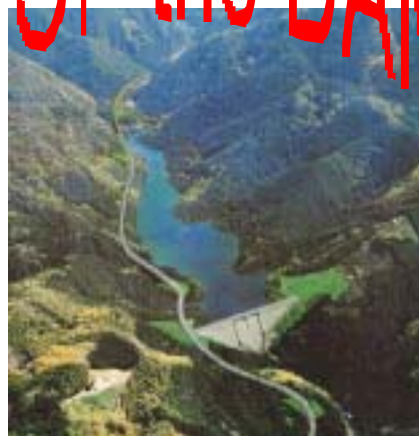


削り取られる山肌

山の中に現れた突然の道路(このコンクリートの壁の上が道路)



STOP the DAM



横尾川ダムについて市民の声！(いぶき野T氏よりメールを頂きました)

和泉市でも相変わらず、「ダムのムダ」が続いているようで腹立たしい想いです。国を守り、土地を肥やし、市民の安全と経済の安定、発展を図るのに、コンクリートだけを道具にしては成功しないように思います。
治水の真理は、自然の生態系の中に存在するはず。昨年、同窓会で「四万十川」を訪れましたが、そこには依然として悠久の自然に囲まれたなかに、保全された風景と接することが出来ました。何のてらいもない自然のあるがままの姿を保つことこそが、自然の災害からの被害を最小限にとどめる最も有効な手段だと感じました。
高知県では、森林税を徴収することになったようです。県内の大部分を森林で覆われた県土を守り、県の経済を活性化 するベストチョイスと、喝采したい思いです。海の資源の保護を訴えて、森林の保全に再投資した気仙沼の 漁村の人々、昆布漁の水揚げの衰えを恐れて海岸の砂地に 植林を続けた日高地方沿岸住民の叡智。和歌山県もやっと森林保護に眼を向けた県政が始まったようです。
国の基本姿勢が定まらぬ中、地方政治のありかたを見直すには 絶好の機会だと感じます。
和泉市も、本当にダムが真に市民の安全、そして幸福に結びつくものなのかを、一考して欲しいと切に願っております。
また、わたし達は老後生活をこの地に求めてやって来た夫婦です。選んだこの街がやはり、将来も間違いなく平和で幸せに暮らせる棲家であることを願って止みません。

とんとん使われる費用

横尾川ダムは建設に向けて動き出しており、早く止めないと無駄な費用がとんとん使われることとなります。



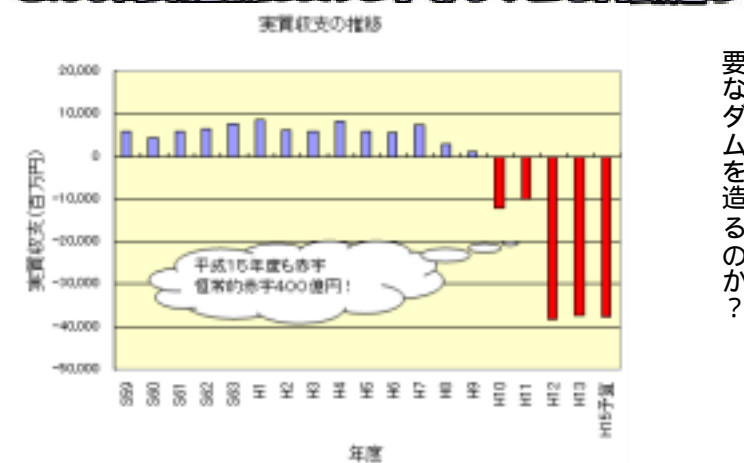
既に累計で12億を超える予算が消化されています。道路は仏並地区の工事を推進中。用地買収は山間部の協議に入る。

< 工事中の取付道路 >



市民の力でダムを中止に！

こんな財政危機にあって不要なダムを何故造る



左図は大阪府の実質収支です。財政再建団体転落寸前で何故不要なダムを造るのか？

淀川水系ダム原則中止の提言！



淀川水系流域委員会は1月17日「原則建設中止」の提言を行いました。国側は98年、99年度の事業評価で、いずれも継続することを確認していましたが、今回の提案で方針の見直しを迫られる事になりました。
このような提言を行ったのは自然環境への重大な悪影響やそもそもダムの必要性に多くの疑問があったものと思われ、同時に昨今の財政が極度に疲弊していることもその背景となっていることを忘れてはなりません。
この計画には既に当初計画の半分以上を超える1900億円もの巨費が投下されており、中止されれば大半は無駄金となります。
この計画はかつて事業評価監視委員会で審議した結果継続の判断が出ており、全く正反対の評価が下されたこととなります。